令和３年度千葉市・大学連絡会議　議事録（概要版）

Ⅰ　日　時　　令和３年１２月１６日（木）　１０時００分～１１時３０分

Ⅱ　場　所　　オンライン会議

Ⅲ　出席者　　出席者名簿のとおり

１　開会

２　挨拶

市長　　現在、本市では、まちづくりの大きな方向性を描く新基本計画の策定に取り組んでいる。この計画では、まちに関係する多様な主体の参画による、10 年先を見据えたまちづくりの考え方をもとに進めるものである。

新しい基本計画の考え方、またそれに関連する各大学様の取り組みについて、広く意見交換を行い、本市の学術文化の向上と発展、活力あるまちづくりを進めていくきっかけとし、大学の皆様とのさらなる連携の深化に繋げていきたい。

３　出席者紹介

４　議題　２０４０年を展望したまちづくり・ひとづくりについて

（１）市長発表　資料「２０４０年を展望したまちづくり・ひとづくりについて」に基づき説明

（２）意見交換

植草学園大学・同短期大学

・　キャンパス内にある「植草共生の森」では、学生や教職員がその整備に携わり、本学の授業での使用のほか、市民向けに開放し自然観察会等を行っている。今年度、本学は日本生態系協会が主催する「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2021」に応募し、日本生態系協会会長賞を受賞した。また、毎年「植草共生の森」でビオトープ祭りを実施しているが、今年も多くの市民向けに地域開放し開催予定である。その他、若葉区地域活性化支援事業として、桜木小学校の子供たちとともに「縄文オペラ加曽利貝塚物語」の創作・上演を３年間にわたって行っている。

・　災害対応について、市防災対策課と連携し、災害時の車中泊対応のため、本学駐車場の一部提供を行うこととしている。また、知的障害者団体との災害時の協力体制として、千葉市「手をつなぐ育成会親の会」と連携し、障害のある児童生徒を持つご家族の避難場所として、本学の一部スペースを提供する方向で協議している。また、千葉東警察署と、大規模災害時における施設の使用に関する協定を締結している。

敬愛大学

・　本学では、自然災害等の大規模災害発生時には、稲毛区役所と連携し、帰宅困難学生を出さないこととあわせて、必要に応じて、地域の避難所等の運営支援を行うことに取り組んでいる。東日本大震災での教訓を生かし、稲毛区内に立地している千葉大学、千葉経済大学、本学の３大学が、稲毛区との連絡調整会議で申し合わせをし、大規模災害時には、交通機関の情報に限らず、ライフラインや避難に関する情報を稲毛区役所で一元化し、情報提供を受けることとしている。引き続き、稲毛区役所と各大学が情報を共有しながら取り組みを進めていきたい。

・ また、大規模な災害が発生した際には、大学周辺で避難所が開設され、地域でのボランティアの担い手不足が懸念されるため、本学に近接する穴川コミュニティセンターの避難所運営委員会に大学職員が参加し、運営に協力をしている。市から要望があれば、大学近隣に設置される避難所での様々な活動に、今後学生が参加することも想定している。
・ 本学建学の精神である「敬天愛人」の下、地域の伴走者として地域との関わりを重視し、地域に愛される大学運営・学園運営を目指していきたい。

帝京平成大学

・ 防災や救急医療を専門とする本学教員が、避難所運営委員会や社会福祉協議会の防災講話企画に参加している。そこでは、地域の防災課題の解決を目的に、３．１１東日本大震災の際、様々な問題・課題を抽出し、その時の経験を基に、その対策を中心に話ができる機会を設けている。また、本学では学生消防団を作り、コロナ禍前には地域向け防災イベントにも協力していた。
・ 今年８月29日に、避難所における安全衛生について食中毒を中心とした感染対策「避難所における食中毒」を題材に講話を行った。また、来年２月26日、帝京大学ちば総合医療センター救命救急部の先生による災害ボランティア講演会を予定している。避難所運営における様々な安全衛生対策について、職員、外来患者をはじめ避難所にお越しになられる被災者向けの衛生対策について講話を予定している。

東京情報大学

・ 本学は、小学校の先生、あるいは小学生を対象にしたプログラミング教育の提供についてサポートを担っていきたいと考えている。
・ 本学は2017年に、看護学部を創設し、情報を学んだ看護師の養成や情報を駆使できる看護師の人材育成を図っている。その看護学部に、認知症の方を対象にした実践研究施設として「ヘルスケア実践研究センター」を今年立ち上げ、若葉区役所と連携し実践している。
・ 今後も本学は、プログラミングをはじめたとした教育関連、また新しくできた看護学部をもとにした地域向け支援で千葉市と協力して引き続き実績していきたい。

放送大学

・ 本学では、近年インターネットを活用して、放送授業のネット配信やオンデマンド型オンライン授業、あるいは学生でなくても学べるインターネット配信公開講座等、多様な方法による多面的な教育の提供に努めている。
・ 現在、看護師など現職の多忙な社会人や遠隔地で仕事に従事されてる方々などをリカレント教育の対象として受け入れている。コロナ禍で進展した教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組みをさらに推進していくため、新たに同時双方向ＷＥＢ授業の導入と、単位認定試験ＩＢＴ化に取り組んでいる。同時双方向ＷＥＢ授業は、インターネットを通じて対面の面接授業のようにインタラクティブに学ぶものである。単位認定試験ＩＢＴ化は、科目履修後の単位認定試験を、インターネットを通じて受験できるようにするものであり、近未来に実現できるよう現在構築に努めている。

・ これからも、新たな技術を活用しながら「いつでもどこでも学べる大学」として、教育を提供していきたい。また、本学のこうした特性を活かし、千葉市内の各大学、短期大学と、単位互換やコンテンツの開発、人的交流などを通じて、一層協力、協働の幅を広げていきたい。

千葉明徳短期大学

・ 今年度、千葉経済短期大学、植草学園短期大学、本学が共同で、ＮＰＯ法人千葉市保育者研修センター「ＭＡＮＡＢＩ」を立ち上げた。そこでは、将来、保育者が学び合える場、保育者がお互いを癒しあるいはそこで元気をつけて、保育の現場に戻っていけるような場にしていきたい。
・ 現在行っている研修は、子育て支援員研修の基本研修、キャリアアップ、潜在保育士、現任保育士向けのコンテンツがあり、今後より発展的な保育の質と量の実現を目指し取り組んでいきたい。千葉市から事業を委託を受ける形で実施しており、今後も、市幼保運営課と密接に連絡をとりながら続けていきたい。本学独自としても、引き続き子育て支援、幼児教育などの場面で千葉市と協力していきたい。

東都大学

・ 本学では、今年度、コロナ禍における「運動不足、心の問題の解消法」をテーマに、市民公開講座をＷＥＢで開催し、多くの方々に参加していただいた。
・ 今年は、幾つかの市内の公民館から出前講義の依頼を受け、ロコモや健康予防、認知症、高齢者の自動車運転、介護、フレイル予防など様々なテーマについて事前に相談しながら、実施している。今後もこのような活動を通して、千葉市と連携していきたい。

淑徳大学

・ 本学は、これまで千葉県立生浜高校との教育連携協定を締結し、本学の学生が生浜高校の生徒へのキャリア支援、不登校生徒への支援の活動を行ってきた。校内居場所カフェは、不登校の生徒をはじめ、福祉的な課題を有する生徒への支援として、校内に居場所と交流の機会を設けて、交流を通じて得た情報を高校と共有するとともに、専門的な支援につなげる役割を果たす取り組みである。生浜高校では、昨年度の研究成果を踏まえて、今年度は、ちば産学官連携プラットフォーム参画校の学生がボランティアとして活動に参加し、高校生と交流し、高校生が抱えている課題を高校と共有する活動を行っている。今後の課題では、こどもの福祉的支援として家庭への支援、小中学生までの間でのスクールカウンセラーの配置等が挙げられる。小中学校から高校までのシームレスな支援取り組みについても取り組んでいく必要があると考えている。
・ そこで三点について、ご検討いただきたい。一つは県立高校との連携である。県と市としての連携のテーマとして、子供たちのシームレスな支援のアプローチとして、本取り組みも検討課題として加えていただきたい。二点目は、子ども交流館を含む地域における高校生、さらには大学生の世代への支援拠点の強化・拡充について継続的に協議の場をお願いしたい。最後、三点目、市内に所在する県立高校または市立高校へのニーズ調査である。市と共同で実施できるよう、協議をさせていただけたらと考えている。今後、高校生の支援については産業界とも協

働し奨学金制度を検討していくことも必要ではないかと考えている。

神田外語大学

・ 本学は、外国語を勉強している学生たちの学習成果を、ボランティア活動を通して社会貢献に繋げていきたい。今夏、東京オリンピック・パラリンピックでは、マスコミ対応、セキュリティ対応等の場面で、２００人ほどの学生が活躍したが、様々な語学サービスが必要とされていることがわかった。また。先日市内で行われたアジア男子バレーボール選手権大会では、通訳、運営のボランティア等々の手伝いをするなど、様々なボランティア活動で語学力を活かして貢献した。
・ 教育現場においても、教室での先生の補助や、外国にルーツをもつ日本語でうまくコミュニケーションがとれない子供に対してボランティアとして支援を行っている。
・ また、毎年千葉県教育委員会の要請を受け、本学教員による、教員向け英語のスキルアップ講座や英語指導法の支援講座等を開催している。

県立保健医療大学

・ 「看護学科の実習・演習等を応用してＩＣＴ活用した地域住民への研修プログラムの開発」について、認知症に関わる研修プログラムの代表例にご紹介する。高齢化社会の進展に伴って、認知症の増加は、本人の徘徊などの問題や幻覚妄想といった精神症状への対処への問題がある。ご本人の訴えには被害的なものも多く、初めての経験となるご家族、地域住民の皆様にとって対応に苦慮され、大きな心のストレスとなっているケースが少なからず見聞される。認知症に限らず、精神疾患でも同様なことがコロナ禍で内在化しており、危惧されている。
・ 本学では、主に看護学生に対し、コロナ禍で、自宅でＩＣＴを活用した心の健康に対する研修を実施し、ストレス及びストレスマネジメントを理解した上で、実際に幻聴の音声動画が用いてシミュレーションを行っている。疑似体験を行い、実際の患者様への対応や自身のストレス管理を学習し、効果を上げている。保健医療分野における、我々の経験を、行政の窓口となる職員の皆様や地域住民により理解しやすい形で、プログラムとして提供したいと考えている。

千葉大学

・ 本学では、今年度から、「学術研究イノベーション推進機構（ＩMO）」が、本格稼働している。学生教員の区別なく、また学外の方も出入りできる、社会に開かれたスペースである。そこで、企業の方等々と切磋琢磨し、イノベーションやベンチャーマインドを創出したい。2020年度は、地元企業と80件以上の共同研究、受託研究が進んでおり、これをさらに活性化、拡充していきたい。
・ もう一つの「西千葉こども起業塾」は、千葉市と本学が連携したアントレプレナーシップの取り組みである。教育学部の藤川教授を中心に、小中学生を含めて、来る 12 月 20 日に「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」が立ち上がる予定である。ＪＦＥ等市内企業とともにこういった取り組みを今後も進めていきたい。多くの大学の先生方、学長先生方におかれましても、様々な取り組みをされており、多方面で連携しながら、今後とも千葉市の発展のために、大学発

展のために、しっかり進んでいきたい。

千葉工業大学	・ 本学では、産学連携による新事業を目的とした、ビジネスシーズ交流会に継続的に協力し、市内企業との共同研究開発の実施している。昨年度から、デザインベースの案件をご提供いただていており、昨年は本学で７案件、今年は新規２件、継続２件、計４件対応させていただいている。昨年度は、泉地区のイチゴ農園の協力のもとブランディングを実施し、実際に学生がかかわり、楽しいデザインの作成や、実際に地域の方にヒアリングした結果をもとに、台湾で開催された国際会議で発表にまで至った。 ・ 中小事業者の人材育成について、経産省が実施している高度デザイン人材育成研究会の国内調査対象校に本学は選ばれており、いわゆるＢtoＢ型人材、イノベーション人材育成プログラムを提供している。また、千葉市内で特徴的なパラリンピック用の車椅子を製作されている事業者と技術協力も行っている。その他、特に車椅子の技術者の方とそのユーザーの方とのコミュニケーションがうまくいくための補助等、具体的な提案を順次実施している。今後も千葉市と他大学の皆様方と協力して連携を進めていきたい。
千葉経済大学・同短期大学部	・ 文教のまち、稲毛区という地域特性であり、様々な教育機関が集積しておりふさわしい立地にある。そのような中、本学は地域に根差した学園でありたいと思っている。 ・ 西千葉駅東側の「ゆりの木商店街」を活性化していきたい。大学のまちづくりゼミの学生が中心になり、商店街の方々、地域の方々と、毎月２回、植栽の手入れや落ち葉の清掃など環境美化活動を行っている。また、例年入学シーズンには、県立千葉東高校、千葉商業高校向けに、入学祝いをモチーフにした10本ののぼりを掲げて新入生を迎えている。冬のシーズンには、24本の街路樹にイルミネーションを飾り、まちの活性化に努めている。 ・ 最近行列のできるコーヒー店が生まれ、昨年、千葉市都市文化賞を受賞している。文教地区のまちを学生たちの、一つの思い出になるような、また訪れたくなるような商店街にしていきたい思いで取り組んでいる。
市長	本市が、これから2040年に向けてまちづくりに取り組もうとしている中、各大学が人材育成・教育活動・地域づくり様々な面で、先取りして取り組んでいただいてることがよく理解でき、大変心強く思っている。また、改めて、本市が恵まれた文教環境にあることを実感したところである。このように教育機関に恵まれているまちは、これからの新しい時代に、非常に有利な立ち位置にあると思っている。最新の学びや、生活の質を向上していけるまちの素地が本市にはあり、今後のその特徴をさらに磨き上げていきたいと思っている。
市長	今年はパラリンピックが行われ、そのレガシー、成果として非常にパラスポーツの認知度が上がったと思っている。パラリンピックを開催することだけが目的ではなく、障害のある人もそうでない人も一緒に生活するスポーツができる、そ

	のようなまちにしていきたい。その中でパラスポーツの普及促進をさらに広げていきたい。 　パラスポーツフェスタを開催したところ、非常に多くの市民の方から事前申し込みをいただいた。各大学の皆様からも、運営にお力添えいただいており、パラスポーツを「知る」段階から「体験する」段階に来ていると思っている。 　パラスポーツ団体の方に聞くと、スポーツを支える運営側に回る人材が不足している状況のようである。そのような面で、市内の大学の皆様のお力を貸していただけないかと思っている。ひいては共生社会の実現に繋がっていくのではないかと思っている。 　具体的には大学の運動施設の場所の提供、学生との交流でまた学生の中でパラスポーツサークルのようなものが、もしできてくるようであれば、主体的に大会運営していただいたり、審判員の資格を取得をしていただくなど、パラスポーツの運営に、一歩進んだ役割を果たしていただけないかと期待している。また、パラスポーツに関する公開講座や、市民の皆様へのお知らせ、そして地域で生活される障害のある方が参加できるような有機的な展開に繋がっていかないかと思っている。各大学でのお力添えご協力活動を期待するところである。もし可能であれば、パラスポーツの件でご意見いただけけるとありがたい。
植草学園大学・同短期大学	・　本学では、特別支援学校の子供たち向けに、ボッチャ大会などを開催していた実績があり、大学として非常に力を入れてる。現在、パラスポーツに関する授業を作ってみてはどうかとの声が学内で出ている。その授業の構成、講師紹介について、千葉市に相談することはできるのか。
市長	千葉市でもこれまで学校訪問や様々なイベントの中で実績もあるので、ぜひご協力をさせていただきたい。特に、最近本市では、パラスポーツコンシェルジュを設置し、オリパラ後も問い合わせが増えている。実際に、障害のある方も配置し、パラスポーツの経験者がつなぐ役割の仕事をしている。そういったところで、事業展開、広がりが出てくると思っている。ぜひ相談させていただき市としても地域で広がりを作っていきたい。
帝京平成大学	・　本学では、今まで、千葉キャンパスで、車椅子フェンシングの競技ボランティアの研修会や、それからブラインドサッカーの研修会など、学生向けの参加活動を実施している。来年の２月４日には、千葉市と共同で、千葉キャンパス内の体育館で、日本ブラインドサッカー協会の関係者をお招きし、ブラインドサッカー体験会を行う予定である。本学には、パラリンピックの審判員も教員で在籍してるので、そのような人材を活用し、協力して実施していきたいと考えている。もし、人材が必要ということであれば、大学として協力していきたいと考えている。
市長	本市としても、大学で取り組まれているイベントについて、市民の方々へのお知らせは、しっかり実施していきたい。市・大学ともにそれぞれ持つ強みを生かし、地域に広げていければと思う。

神田外語大学	・ 神田外語大学では、全国の外語大学の学生を対象とし、スポーツボランティアセミナーを夏三日間連続で開催している。その中で、パラリンピックの歴史や面白さをパラリンピックの選手の方たちに話をしてもらうなどのプログラムを作っている。こういったプログラムを、さきほど植草学園さんがおっしゃたように、協働で千葉独特のプログラムを作り、初等中等教育の現場にも浸透していけたらと考えている。
市長	本市でも小中学校で、選手の訪問プログラムを続けている。そこから、さらに踏み込んで、小中学校でのパラスポーツを通して、共生社会の重要性について伝えていかなければならないと考えている。そういった教育プログラムを小中学生、市民の方々にどう広げていくのか、検討させていただきたいと思う。
淑徳大学	・ 本学では、千葉市長杯長谷川良信記念車椅子バスケットボール全国大会を、2012年より開催している。今後のパラスポーツ普及啓発で、二点提案させていただきたい。 ・ 一つは、オリパラも終えて、このノウハウやネットワークを今後どのように継承していくのかというところが非常に重要かと思っている。それぞれの大学さんの取り組みもお聞きしながら、なかなか単一の大学が継続して実施するのは、かなり厳しいと思う。そのような意味で、ちば産学官連携プラットフォームを担い手として、ノウハウの継承を、チーム千葉で取り組んでいけたらと思う。 ・ 二つ目は、パラスポーツを契機に障害のある方の雇用の創出を進めていく必要があると考える。それがひいては経済の活性化という視点でも重要になってくると思う。今後検討していく必要があるのでがないかと思う。
市長	是非、ちば産学官連携プラットフォームの中で、パラスポーツをどう普及促進していくのか、大学の力添えをいただきたい。それぞれの大学で取り組みがあるというご紹介をいただいたが、それをまとめていけば、さらに大きな広がりにつながっていくと思う。どのような形でつなげていくのか、本市でたたき台をイメージし、またご相談させていただきたい。
市長	続きまして、二点目としてご意見をいただきたいのが、市民の学び直しの機会の創出である。令和２年度から、市内大学の協力のもと、リカレント教育動画を作成し、オンライン配信を実施している。コロナ禍で、在宅時間が長くなる中、市民の皆様が、学び直しをしてみたいというニーズが高まっていると感じている。すでにご協力をいただき進めているところであるが、さらに取り組みを強化していければと思っている。社会人も含め、ぜひ大学の皆様に、その市民の学び直しの機会を提供いただきたいと思っている。分野の設定や内容は、最大限本市として協力していきたいと思っている。こちらについても、さらに取り組みを強めていきたいと思うので、引き続きのご理解ご協力をお願いしたい。 千葉敬愛短期大学の明石学長には、昨年リカレント教育動画にご出演いただいた。今後の取り組みについて、コメントいただけると大変ありがたいが。
千葉敬愛短期大学	・ 学び直しやリカレント教育に関し、幸いにも放送大学が市内には立地しているこ

とを再度認識してもらいたいと思う。千葉市の宝だと思いたい。

・ 例えば、千葉市には、公民館が45館ぐらいある。あとコミュニティセンターもあり、それと大学の連携が必要かなと思う。各大学も公開講座を実施しているが、その公開講座が単独になりがちである。それを束ねるのを放送大学にお願いして、インターネットで流していただいて、それを公民館とかコミュニティセンター、中央図書館など図書館で流すのが千葉市はいいのではないか。単独はなくて放送大学を中心になってまとめていただいて、千葉市版を作ってくれると良いと思う。

放送大学

・ 本学は、過去40年近い実績と経験があるので、そのようなプロジェクトがあればぜひご協力をさせていただきたいと思う。さきほどご紹介したとおり、現在多様な教育手段を開発しており、それに応じた様々なコンテンツや、技術・ノウハウを蓄積しつつある。千葉市内の大学のご期待に沿えるものと思っている。また技術・ノウハウについて、いろいろなお尋ねがあれば、お寄せいただきたい。

・ 本学が今まで提供してきた遠隔教育システムに対して、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞をいただいた。こういった技術・ノウハウは、やはり社会の財産として、皆さんに利用していただきたいと、常々思っているところである。

市長

是非、蓄積されたノウハウを千葉市民のリカレント教育の場でもお力添えいただきたいと思っている。また、市内の大学への広げ方、進み方についてご相談させていただきたい。

千葉経済大学・同短期大学部

・ 千葉市長の発表資料14ページ「みんなで目指す未来の千葉市」の、「都市と自然が織りなす・ちばし」の「ちばし」がひらがな表記になっている。千葉氏ゆかりのまちであるから、漢字で千葉市と表記された方がよいかと思う。

市長

千葉市の名前は非常に歴史的な重みがあり、非常に由緒のある名前だということは重々承知している。ご意見踏まえ、庁内で議論してみたいと思う。

千葉敬愛短期大学

・ 先ほどのリカレント教育について資格制度が乏しいと感じる。これは学び直しをする側のモチベーションが少し低く、１回限りで終わりがちである。例えば、千葉明徳短期大学の金子先生が本日提案されたように、ＮＰＯ法人を作り保育者の学び直しの場として、研修センター「ＭＡＮＡＢＩ」の紹介があった。このレベルまでに至らずとも、例えば、千葉市独自のポイント制度を絡めていただくなど、中堅の方が、ＮＰＯの中で学ぶような仕組みも必要ではないかと思う。各大学、公民館で多くの公開講座がある中、放送大学を中心に、講座の見直し、コンテンツ作りのためのワーキンググループをつくっていただき、千葉市バージョンの学びのポイントになりますよ、65歳からの再雇用もできますよなど、人生１００年時代における生き方の一つとして、学び直しがあるというような仕組みを独自に作ってもいいかと思う。

市長

リカレント教育を進めるにあたり、市民の方が学び直しをしてみたいと思わせる行動変容の仕組みが必要ではないかと思っている。どのような形にしていくのか、ご相談させていただきたい。こちらで検討させていただく。

市長	加えて、二点お願いがある。 一つは、市で「コネクテッドセンターちば」という窓口を今年４月に設置した。これは、市のサービスの質の向上、新たな行政ニーズへの対応について、民間事業者の持つノウハウ、技術の提案をいただいて、どういった解決ができるのか、一緒に協働する仕組みである。民間事業者だけでなく、大学の皆様からもご提案いただきたいと思う。今後、市で地域づくりに関する人的資源のご提供をお願いするものや技術的な提案を期待するものなど、課題提案型で募集をする予定である。ぜひ各大学の皆様にも地域課題を解決する取り組みにご参画いただきたい。 二つ目は、大学内でのシェアサイクルステーション設置である。千葉市では公共交通機関の補完として、シェアサイクル事業を展開しており、かなりの利用実績が出てきている。さらなる利用の促進には、大学との連携が重要ではないかと思っている。学内のシェアサイクルステーションの設置や、学生のシェアサイクルの利用周知にご協力いただけないかと思っている。 環境にやさしい移動手段の一つだと思っているので、すでにご協力いただいている大学もかなりあるが、まだご検討いただけていない大学ではぜひ前向きにご検討をお願いしたいと思う。